

はじめに

実は、「ワイエイ」についての「本」を出版しませんか？ という提案をいただいたときに最初はどうもピンときませんでした。たぶんそうした「本」は、『あるやり方に基づいて行った結果、ある程度以上の「成功」をした』という状況で書かれるものだと考えていたので、少なくともぼくは「ワイエイ」が、そのような対象になるとは思ってもみなかったからです。

たしかに山陰では現在いちばん規模が大きく、クリニック開院から10年に満たない段階で、人口15万人ほどの米子市にあって10,000名を超える初診来院数と、およそ3,000名のメンテナンス（定期検診）来院者という状況は、ある意味では「成功」していると言えるかも知れません。

ぼくにとって「本」というのは、文学作品は少し違うかも知れないけれど、読む人にとって、「何か新しい分野のことを知る」とか、「すでに知っている分野について知識を深める」ことができることに価値があると思っています。

そういった意味では、「ワイエイ」はまだ未完成、発展途上……。ですが、ちょうど10年という節目にあたり、これまでの経緯を振り返り、ひと区切りつけるのも良いことだと考えました。さらに、ぼくは、「ワイエイ」が行っている歯科医療を多くの人々に知っていただきたいし、ぼくたちのような歯科医院が全国に増えてくれることを心から願っています。そして、この本を読まれる人にとって何かひとつでも本の内容で役立つことがあったなら、とても嬉しいです、本の役割としてはそれでOKだろうと思います。

この本の原稿をマジメに書こうと決めて、取り組み始めたのが2008年11月11日——。

ちょうどその10年前、1998年11月11日にぼくはある決意をしていました。

その夜は、山中渉と二人で鮭屋に行く約束をしていて、それが「ワイエイ」のスタートだったのです。

足本 敦

